

1. 教育の責任

学生が過ごす4年間において、社会で活躍し貢献できる能力を習得することを目指し、教員の実務経験による実践と研究による理論を通して培ってきたノウハウを最大限に活用しかつ共有することで、優れた人材育成を目指す。

特に、建築・インテリアに関する知識と技術の習得を講義系科目で行い、設計演習系科目を通して技術の定着および展開、構想力の習得を行う。また、授業を通して、社会が抱えている課題の発見・検討・分析、建築およびインテリアにおける解法の提案を行い、常に社会を意識した教育・指導を行う。

【主な担当科目】

「建築・インテリア概論」（春学期、約150名）、「空間デザイン論」（春学期、約30名）、「インテリア計画」（春学期、約100名）、「計製図演習Ⅱ」（秋学期、約20名）「設計製図演習・Ⅲ・Ⅳ」（春・秋学期、約20名）

2. 教育の理念

建築やインテリアにおける研究に基づく理論と実務による実践を統合することが重要である。講義系科目を通して各分野の理論を構築すること、演習系科目を通して理論の展開から実践的な構想力やデザイン力を養成することを目指す。

特に、1～2回生は建築およびインテリアデザインの基礎力を、3～4回生はゼミナールなどを通じて基礎力を展開する発展的な能力の習得を目指す。

3. 教育の方法

物事の本質を見極める思考力とそれらを展開し周囲と共有する行動力を習得するために、学生との対話を重視し、学生の能力を最大限に引き出すとともに、課題の発見と解法、達成目標と動機付けを行い、理論と実践の一体的な指導を心がける。

【講義系科目】

- ・建築やインテリアに関する知識や技術に関して、これまでの実務経験を通して具体的に説明を行う。
- ・授業終了時には習熟度の確認および質問などを記述する「振り返りレポート」作成を行う。
- ・知識の定着状況を把握するために、el-Campusなどを通して「振り返りテスト」を実施する。
- ・「振り返りレポート」に記述された質問などについては、授業内で回答および解説を行う。
- ・状況に応じて、レポート課題の発表および議論など活発な意見交換を実施する。

【演習系科目】

- ・課題の説明から問題の発見、コンセプトの立案など計画の進め方や発想法、プレゼン力などを指導する。
- ・関連事例の紹介や計画（エスキース）手法などについて実務経験をもとに解説する。
- ・計画案について、学生と「1対1」や「1対3」など状況に応じてエスキース指導および議論を行う。

4. 教育の成果

授業アンケートやレポートの内容などから、「振り返りレポート」の作成、el-Campusによる「振り返りテスト」を通して建築とインテリアデザインに関する知識や技術の定着に一定の効果があつた。特に、「建築・インテリア概論」では建築やインテリアを初めて学ぶ学生に対して、各分野に興味や関心を持ってもらい、今後の学びに対する目的や意識付けを行うことができた。

5. 改善への努力と今後の目標

学生の知識と技術の習得を効果的に引き出すことを常に考える。これまでの、受動的な授業スタイルから脱却するため、学生自らの積極性を引き出せるように、学生との対話を重視した教育及び授業に取り組み、学生の参加型の授業形式によって、授業内での自由な発言と活発な議論が出来るように雰囲気作りに努めることで、学生の習熟度を飛躍的に高めることを目指す。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：建築&芸術学部 名前：増岡 亮 作成日：2024年1月10日

【添付資料】

シラバス, 授業アンケート